

# 日本酒

2023年度 兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム  
第2回

● 基調講演者

嘉納健二

白鶴酒造株式会社代表取締役社長  
灘五郷酒造組合理事長

● パネリスト ※パネリストは、都合により変更になる場合がございます。

高橋俊成

菊正宗酒造株式会社  
執行役員・総合研究所所長

櫻井一雅

白鶴酒造株式会社  
専務取締役執行役員・生産本部長

木本圭一

関西学院大学国際学部  
教授

牧慎太郎

兵庫県立大学政策科学研究所  
特任教授

● 討論者

中村 稔

兵庫県立大学政策科学研究所特任教授

● 司 会

津田なおみ

甲南女子大学文学部専任講師

の  
世界  
| 脱炭素社会実現への道のり |

11月18日(土) 参加無料  
14:00-17:00

御影公会堂 白鶴ホール  
(開場13:30)

定員 会場300名 / オンライン500名

※オンライン参加の方は事前にZoomアプリをインストールしてください。  
後日いただいたメールアドレスにURL等受講情報をお送りします。

申込 以下QRコードより要登録

※ 締切：2023年11月17日(金)



参加申込フォーム

<https://forms.gle/E9Cci12uP35evcFD6>

(主催) 兵庫県立大学政策科学研究所  
(共催) 関西学院大学産業研究所  
(後援) 白鶴酒造株式会社、菊正宗酒造株式会社、東灘区役所  
御影自治会連絡協議会、一般財団法人住吉学園、住吉歴史資料館

サステイナブルな社会と

## 開催趣旨

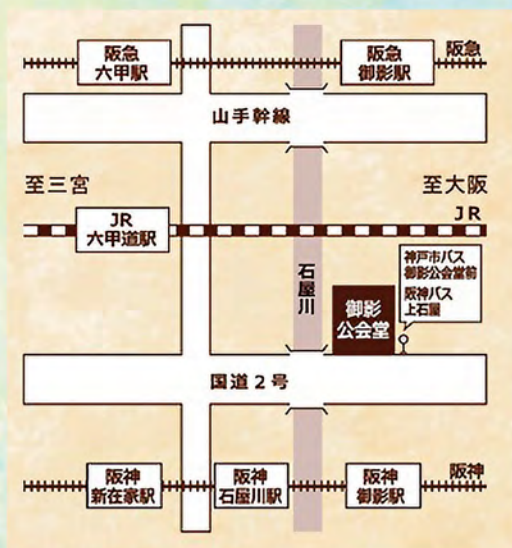
持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、より良い世界を実現するために世界中の国々が様々な取り組みを行うことで達成されます。なかでも気候変動に対する具体的措置を施すことは、最重要課題の1つとなっています。そして日本に対しても、グローバル化による世界経済の結びつきが強まることを前提に、持続可能な社会の実現に対する貢献が求められています。

本シンポジウムでは、世界にアピールできる日本の個性という観点から、日本の伝統産業に焦点をあてます。前近代社会に起源をもち、現在もなお持続する伝統産業には、自然との調和や共生をはかりながらダイナミックな市場の変化に適応していく力があります。しかも近年、日本の食文化が世界の注目を集めるようになりました。特に日本酒は、世界各地の食文化に寄り添いながら「SAKE」として受け入れられつつあります。そこで本シンポジウムでは、普段はなかなか知ることができない、日本を代表する企業の様々な活動や地域社会との関係を見ることで、持続可能な社会の実現に対する現代清酒業の貢献について考えてみたいと思います。

## アクセス

- <阪神電鉄> 石屋川駅より北へ徒歩5分  
御影駅より徒歩10分
- <阪急神戸線> 御影駅より市バス16・36系統「御影公会堂前」下車
- <JR神戸線> 六甲駅より市バス16・36系統「御影公会堂前」下車
- <JR神戸線> 住吉駅より阪神バス「上石屋」下車
- 六甲道駅より徒歩15分
- 六甲道駅より市バス16・36系統「御影公会堂前」下車

※ 駐車スペースを準備できませんので、お車でのお越しはご遠慮ください。



出典：御影公会堂 <https://mikage-kokaido.jp/access.html>

### 【お問い合わせ】

〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1 兵庫県立大学政策科学研究所

☎(078)794-5302 FAX (078)794-6218 ✉ [ipshyogo@gmail.com](mailto:ipshyogo@gmail.com)